

広告

企画・制作  
(株)読売鹿児島広告社

鹿児島県主催の第2回「かごしま空き家活用コンテスト」  
アイデア部門で最優秀賞を受賞!!



東北工業大学  
建築学部建築学科  
教授 石井 敏氏  
に聞く

## 高齢期の暮らしを支える生活環境づくりと施設計画

―研究内容について―  
建物設計における視点や考え方、それらを反映した計画の具現化を目指す。建築計画学・分野が専門です。高齢期、特に要介護期に関わる老人ホーム等施設とその居住環境のあり方を探ることが大きなテーマです。  
通常、家を建てる際は、施主＝利用者で、要望を設計士に直接伝えてやりとりしながら建設します。しかし、福祉施設や学校、公共施設などは、施設の事業主や運営者と実際に使う人が異なります。その結果、実際の利用者、つまりそこで暮らす高齢者や働くスタッフの視点が抜け落ち、建物を使い始めると使い勝手や居心地が悪かったりなど、利用者にとって適切ではないものになる可能性があります。だからこそ、運営側と設計側とをつなぐ役割や、利用者の声を反映した計画への誘導が必要で、特に弱い立場の声や視点は置き去りにされてしまいがちです。計画のための適切な知見を得て、実際の計画に反映されるように人と人、研究成果と設計とをつなぐことを目指す研究です。  
そのために、利用者の暮らし方や空間の利用の状

況、利用者の思いや、介護の内容等を詳細に探ります。施設の実態や課題を明らかにし、そこを使う人たちの潜在的なニーズをあぶり出し、あるべき施設像を探ります。  
また、介護施設で人生の最期を迎える方も多くいらっしゃいます。プライバシーが守られた中で、その人らしい暮らしが営めることは最重要で、そのための環境や施設のあるべき姿を社会に提案するために研究を続けています。  
―鹿児島県主催の第2回「かごしま空き家活用コンテスト」受賞について―  
きっかけは大和村と3大(本学)近畿大(京都大)の仲間と共同で行っている、地域の空き家を活用した集落内居住支援の仕組みづくりプロジェクト。人口減少・高齢化が進む同村で、大規模な介護施設を建て替えることが適切か、今後の村の福祉のあり方を村や住民と考えるプロジェクトを2020年から取り組んでいます。学生が空き家を活用しながら住み慣れた集落の中で介護を受けながら暮らす形を提案。アイデア部門で最優秀賞を受賞しました。  
国でも可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続ける「地域包括ケアシステム」の実現に力を入れています。これからの福祉にはまちづくりの視点も必要です。福祉施設をまちの中でどんな場所として位置づけるべきか、さ

らに研究を進めたいと思います。

### ―今後の展望―

認知症のある人のための環境づくりも自身での大きな研究テーマです。日本は認知症に配慮した空間や物理的な環境への意識がまだまだ乏しいのが現状。認知症のある人と共生する社会の実現には、建築、介護等に携わる人だけでなく、一般の皆さんの理解と共感も重要です。社会でメッセージを発信する認知症当事者も増えていきます。そういった方々とも連携しながら、当事者視点での建物やまちづくりのあり方を研究し、成果を社会に還元したいと思っています。



### 株式会社 TRANSIT

代表取締役 工藤 雅俊  
〒983-0012  
宮城県仙台市宮城野区出花2丁目9-17-B102  
tel 022-762-5956 / fax 022-762-5964  
mail m\_kudo@transit-inc.jp  
HP <http://transit-inc.jp>



### 八光建設株式会社

〒963-8026 福島県郡山市並木 1-1-11  
TEL.024-922-8553 FAX.024-939-1052

HP <https://hk-const.com/>

建てる。いろいろ。グッとくる。



アンダンチ  
宮城県仙台市若林区  
なないろの里1丁目19-2  
<https://andanchi.jp>